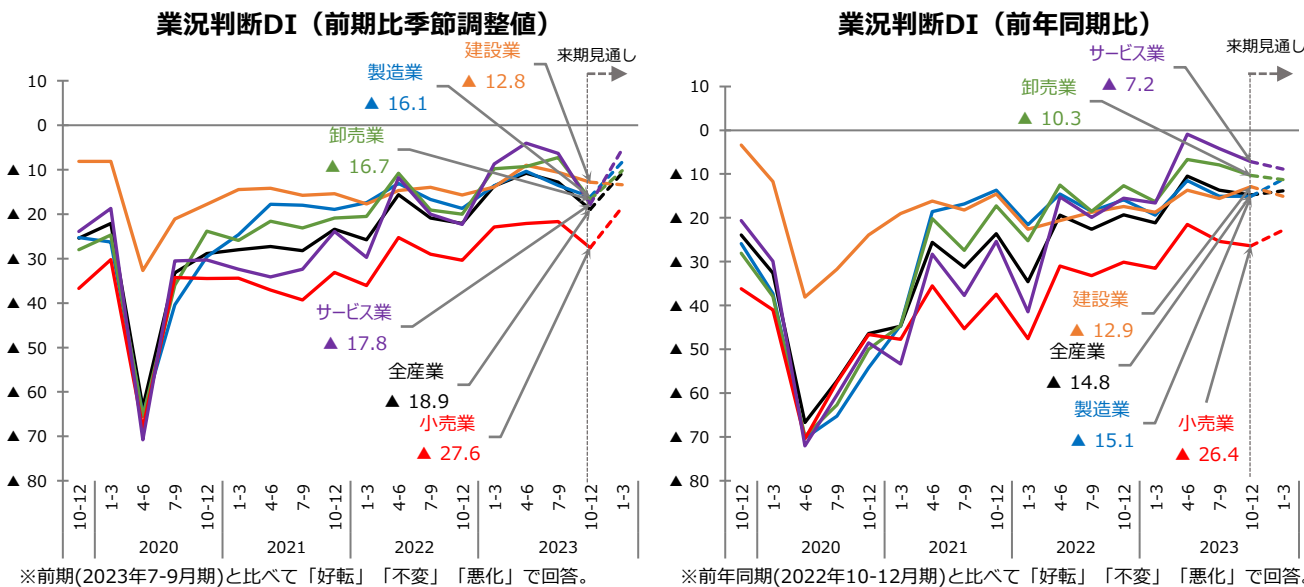


第174回中小企業景況調査（2023年10-12月期）のポイント

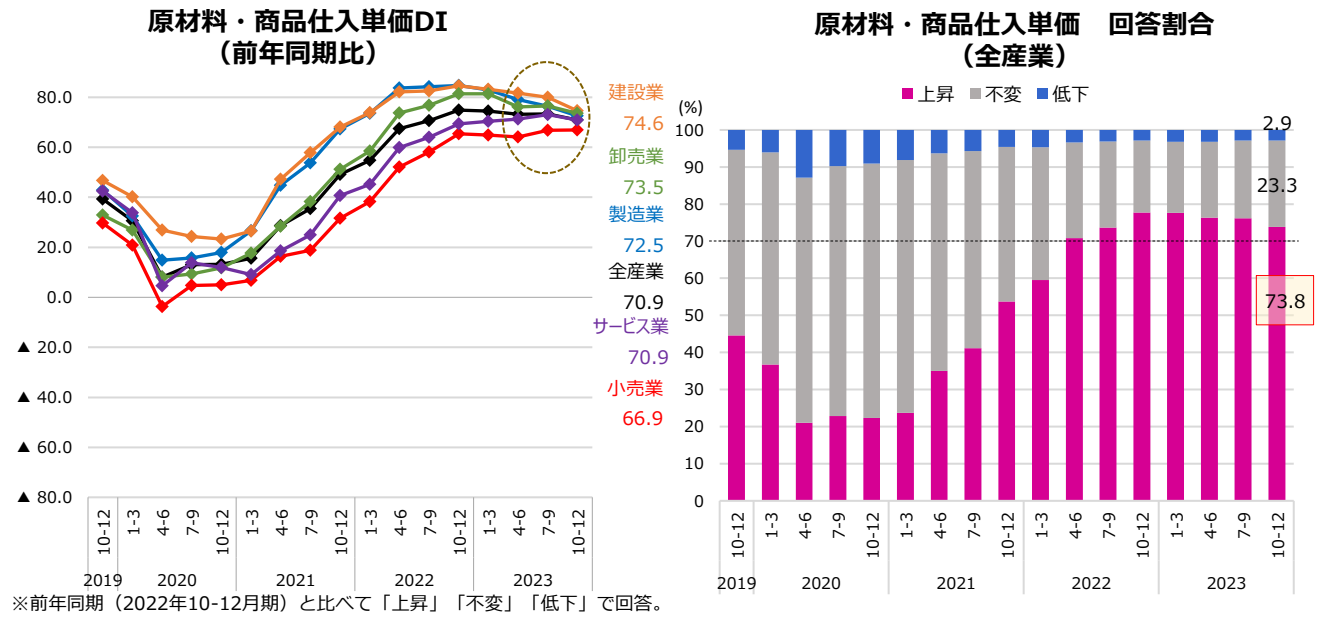
1. 業況判断DIは、2期連続して低下

全産業の「業況判断DI（前期比季節調整値）」は、前期（2023年7-9月期）から6.1ポイント減（▲18.9）と2期連続して低下。産業別では、サービス業で11.5ポイント減（▲17.8）、卸売業で9.4ポイント減（▲16.7）、小売業で5.9ポイント減（▲27.6）、製造業で2.6ポイント減（▲16.1）、建設業で2.2ポイント減（▲12.8）と低下。来期見通しは、全産業で上昇し、産業別では、建設業を除く4産業で上昇の見込み。



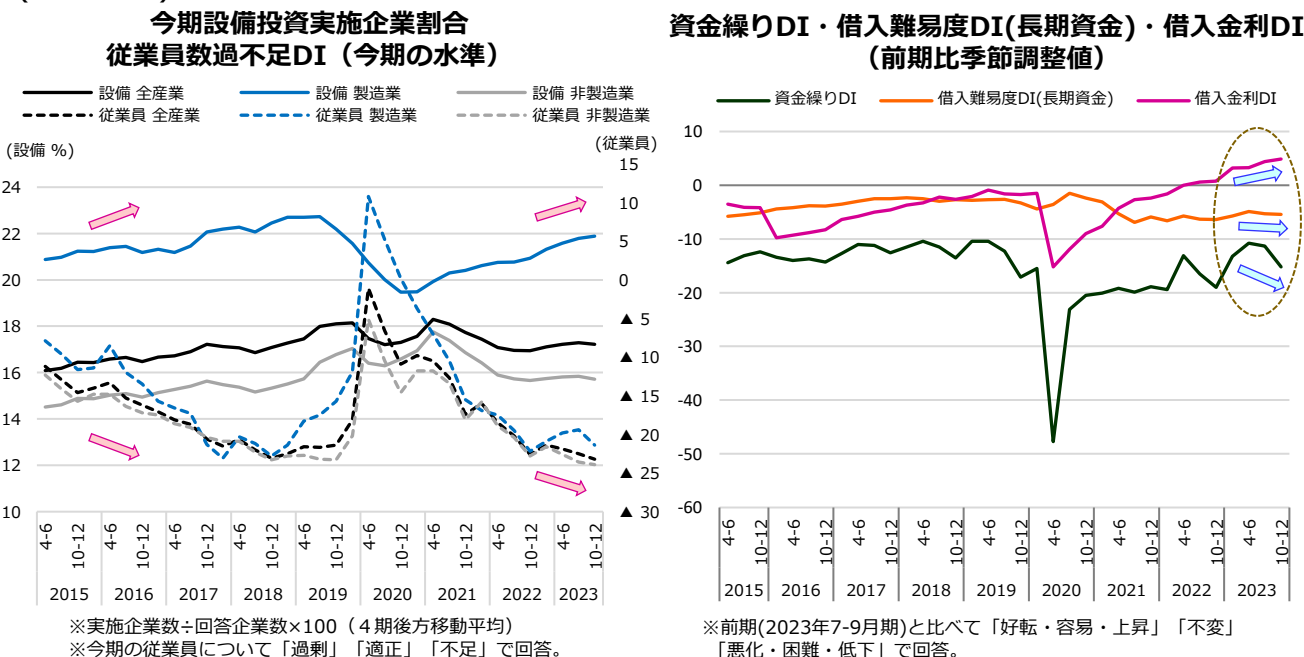
2. 原材料・商品仕入単価DIは、頭打ちも高水準を維持

「原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）」は、小売業で過去最高値を更新するも、製造業、建設業、卸売業、サービス業で頭打ちの状況にある。ただし、全産業の回答内訳をみると、2022年4-6月期以降、「上昇」の回答割合は7割を超える水準が継続しており、原材料価格は、高止まりの状況にある。



3. 製造業を中心に、設備投資実施割合が上昇

コロナ禍を経て、従業員の不足感が強まると「設備投資実施割合」が上昇する傾向が戻り、特に製造業では顕著である。企業活動の正常化や設備投資増加による資金の流出もあり、「資金繰りDI」は直近でやや低下、「借入金利DI」は上昇基調だが、「借入難易度DI（長期資金）」は横ばいで推移している。



4. 中小企業のコメント

- 【建設業】** ◆人手不足解消のため、在職者賃金引上げ、休暇取得促進、所定労働時間削減等に取組んできたが、材料価格や下請け単価の上昇、入札競争の激化の受注難で、経営環境は悪化している。どこまで改善を継続できるか、不透明だ。[一般土木建築工事業]
- 【サービス業】** ◆旅割キャンペーンが、6月で終わり、7月から、宿泊客が減少するかと思いましたが、特に影響なく、安心しています。ただし、食材等の値上げで、利益が減っています。施設の修繕費もかさみ、経営が大変です。[旅館、ホテル]
- 【卸売業】** ◆観光や外食の動きは、随分活発になってきたが、物価上昇による、経費増加の影響により、業況が好転するまでに至らない。販売単価は当然上げているが、その影響で取引額が少なくなる得意先も多く、悩ましいところである。[その他の食料・飲料卸売業]
- 【小売業】** ◆売上は、若干上昇。しかし、仕入れ値が高騰しており、その他の経費も、増加傾向である。在庫が過剰気味であり、採算が低下している。[各種食料品小売業]
- 【製造業】** ◆前年同期と比べると、原材料による製品単価の上昇が見られるが、前期と比べると、値段の上昇は、落ち着いてきたように思うので、このまま来期につなげていきたい。[パン製造業]
- 【製造業】** ◆半導体不足の影響は、解消してきていて、受注増加傾向にあるが、人材不足による、生産人員の確保が厳しく、課題となっている。現状の受注計画通りに進捗することを、注視していきたい。[自動車部品・附属品製造業]

【調査要領】
 1. 調査時点 2023年11月15日時点
 2. 調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,833、有効回答企業数17,952、有効回答率95.3%）
 3. 自由回答数 3,743件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」pp.79-80に掲載）
 ※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。